

刊夕日七月五



定価 一部全紙 月金五拾圓 郵費五圓  
廣告料 五號十二字 日行金五拾圓  
日曜祭日の翌日休刊  
發行所 常磐毎日新聞社  
印刷所 常磐毎日印刷株式会社

李官堡の激戦と

大越中佐の戦死に就て (四)

岡本少将閣下御前講演

一度停止固着した戦線を起したしむるに困難なるは夜暗の通弊であります。當日も第二線の前進が遅れ、其の間敵火の下にあつて其前進を無爲待ち合せ中の第一線が命せるに第十一中隊の射撃に連れて遂に其左翼方面より射撃を開始するに至りました。茲に於て敵は益々我第一線の所在を明かにしましたので射撃は愈正確となりました。其處で幸ひに此射撃が聯隊左翼から起り出しまして、未だ我大隊迄波及せぬ中に速に前進した方がヨロシイと大隊長に申上第二線が追及しませぬ中に思ひ切て第一線に躍進を命じました。

此時第二線も漸く激勵叱咤により前進しましたが猛烈なる敵火の下とて元氣附けに誰か發唱致しましたかヨイサ〜と云ふ掛聲が掛りましたので之れが大隊の全正面に傳播致しました。即ち我大隊は射撃こそ致しませんでしたが此掛聲により敵火が又我に指向せられて參りました。其處で大越大隊長は九切の功を一資に欠いたと感せられましたか

一度此情況を見ると少しく右に大隊が寄り過ぎて居る様な感じが致しまして之れから斜左すべきやと云ふ問題が起りましたが、克く情況を判断せられたる大隊長は餘り早きに過ぎると狭小面に混雜を起すから尙一層近づいて敵の側方に出て思ひ切て方向を變ずるが、此場合可ならんと極めて適切な判断によりまして更に一躍進して停止しますや否や思ひ切て第五中隊より左に方向谷換を命じ豫備隊たりし第七中隊を第五中隊の右に増加して攻撃を致すことにせられました。其時丁度第一線が三軒屋に突入致した時機でせう爆薬炸裂の音響も聞へました今茲で施回しても大夫丈である云ふ好機でしたから施回終ると共に突撃致しました。續て第六中隊と第五中隊の續き目位の處でも爆薬の炸裂の音を聞いて我等は一途に突撃しました。

敵は其左翼の方に移動する我が軍の掛聲及三軒屋方面の爆破により注意を此方にも喚起してか村の南端たる我突撃した方面に逐次展

開し來れる模様でしたが、我は既に突入せるを以て彼は逐次第二線家屋に後退し抵抗を試みるに至りました。茲に我大隊正面も家屋戦闘となり、歩々格闘と爆薬闘との交錯となりました。當時大隊長は隊伍の整頓を必要とし豫て手許に集め置きました四名の喇叭手をして第二大隊集まれの譜を吹奏せしめました。左方面今し格闘の最中であり又一部は三軒屋に突入と云ふ關係にて集結容易ならず大隊長は取り敢へず集まれる約二小隊を率ひて村落の東側に沿ひて北進せられ、予は豫ての約束に基づき命により村端占領の信號として支那家屋に放火中遂に大隊長と相失ふに至りました。此時尙第三大隊正面は村端に進入するを得ざる關係なるを知り、逐次南方より敵の左翼を席捲せんとて私は丁度手許に集結し得たる約二小隊を指揮しつゝ家より家と逐次北方に格闘と火戦を交へて努力致しました。

一壁を超へんとして數名を斃し一屋を占領せんとして十數名を傷き一部の兵力集結するかと思へは大部が散亂すると云ふ様な調子で軟軟運々たる戦況となりました。

中上げます

此度聚樂館南隣の「世界」と云ふカフエーを私の姉が經營する事になりました姉は人の好い割に不運な身の上でした弟として私は何とか幸福な老後を送らせ度いと存じます。充分勉強するさうですから何卒皆様御ひいきを願ひます。

伊藤 一

セメント 壁用材料  
コールタール  
ペンキ塗料  
板ガラス

磐城セメント株式會社  
代理店 西村屋藥舗  
平町二丁目電三

葬具と 靈柩自動車御用達

造花

町川新町平  
屋本橋  
番三六一話電

貸切は●●●

セダン揃ひで 貸切専門の 昭和タクシーへ

電話三四三三

鹽豚販賣開始

三二三屋

平田町

■ 産名城磐 ■  
らか鹽と節鯉

魚問屋

店理代平命生本日大最優最  
榮盛賀志  
番一三三電 目丁四平

配達敏速

専門 内科一般

宅診 内科は何でも診療致します  
往診 呼吸器病ばかりではありません  
平町南町六五

川井内科診療所

醫學士 川井重之  
女醫 川井安子

電話一八一番

小兒ノかん。むしニあかひき丸堀藥局  
平町二丁目  
電話三三六

外科

専門 光線科  
上田外科醫院  
平町南番  
電話一二九町

# 産馬を組合所有に

## 策一の餘窮

農村の極度な不景気は遂に片腕ともいふべき農馬の差押へ問まで持ちあがり全く想像だも及ばない悲惨な状況を呈してゐる然も普通貸借なら兎も角として國稅乃至は縣稅等

**滞納**にのよるもかが多いのでその額も僅かに三圓、五圓の代償に過ぎない爲に昨今の如く産馬價格の下落した場合に一層價格低

農村の極度な不景気は遂に片腕ともいふべき農馬の差押へ問まで持ちあがり全く想像だも及ばない悲惨な状況を呈してゐる然も普通貸借なら兎も角として國稅乃至は縣稅等

**滞納**にのよるもかが多いのでその額も僅かに三圓、五圓の代償に過ぎない爲に昨今の如く産馬價格の下落した場合に一層價格低

## 差押へ免れに

落の因を作るもので由々しき問題としてこれが對策につき各方面共苦心してゐるがこの程石城地方山間部ではこれが對抗策として

**各部落**に産馬組合を設け産馬を全部組合所有として如何なる場合にも差押へが出来ない方法を講じやうとの議が起り目下準備中で非常に成行を注目されてゐる

## 苗代は順調

### 申分なき發育

石城郡下の苗代は殆んど播種が終了した、今年は天候が昨年よりも小波動の變調である爲め苗代がスク／＼のびて六七分位になつた、此の分順調に行けば申分はないから昨年より遙かに好成绩の結果を収め得るものと見られてゐる

昨年より遙かによい

住の希望者を募つた處五十三名、家族を合して百五十七名に達したので愈九日午前新しい道を求めて滿洲に向け出發すると

## 鮮人坑夫

### 滿洲移住

新らしい道を求めて旅立つ

石城郡内郷村磐崎炭礦高坂坑朝鮮人労働者監督徳田福次郎事李昌沫氏は滿洲

## 麥作

### 至極良好

昨年来に於ける郡下の氣温は例年になく暖かであつた爲め麥は草丈のみ伸びて收穫時を憂慮されて居たが其後氣温降雨共適度に加はり最近神谷農事試験分場で調査した處に依ると大麥は早中晩の三種共平均して發育良好となり本年の草丈は一

米一六の増産に於いても四〇二本の増を見て居るので平年作には充分に及ぶ模様である

## 水野縣視學

### 石城初巡視

水野縣視學は来る九日午前十時三十分着にて來平左の如き日割に依り郡下各小學校の初巡視をなし郡下小

## 平商の創立記念日

### 學生雄辯大會を開催

平商業學校にては来る十日が創立記念に當るので午前八時より記念式舉行、吉田校長の記念講演あり終つて學生雄辯大會を開催すると

## 道先案内

### 演習に

石城郡磐崎村青年團にては本日より同村附近にて行はれる士官學校生徒の實測演習に道先案内及び器具類の運搬等に就いて便宜を計る爲め出動する事になつた

## 磐中の總會

磐城中學校にては今月下旬保護者總會を開くと

## 各戸一名宛出動

### 市街の美化運動

石城郡小名濱町では陸軍士官學校實測演習、諏訪神社例祭、海軍点呼の軍艦回航等入出を控へて居るので八日午前八時より町内各戸より一名づつ出動し道路の修

## 体育協支部會

縣下體育協會總會は去る五日福

學校長會並に教育部會總會に臨席講演をなす筈であるが十四日は午後五時より住吉屋本店にて平町各小學校長發起となり歓迎會を催すと

## 新らたに手工科

### 平町各小學校で

平町各小學校にては本年度より新たに尋常科の教科目中に手工科を加へる爲め縣へ申請中の處本日認可の通知あつたので直ちに實施することになつたが各校担任教師は左の如くである

(第一)山口重幸(第二)高橋チイ(第三)各組主任

## 二割方減收

### 植田方面春蠶

石城郡植田町方面の春蠶掃立は郡下で最も早く八日頃より一齊に行はれ給桑充分の様だがそれでも二割の減收を豫想されて居る

## 養鶏講話

### 勿來に開く

石城郡勿來町養鶏組合では十二日午前十時より同町會議室に於いて養鶏講話會を開催するが講師は郡農會青山技手である

## 求人部

- △農夫 四十五才迄 尋卒
- △月十圓(神谷村某)
- △ボーイ見習 十八才 尋
- △卒月五圓(平町某洋食店)
- △自動車助手 十八才 高
- △卒月五圓(上遠野村某)

ケ所に置いた支部を廢止し各郡市に支部を置き統制を圖る事になつたと

## 募一二勇士遺族の

### 阿部政右衛門

一、弔慰金一人金拾錢均一に願ひます

二、右弔慰金は平野前丸ッ阿部石炭店又は常磐毎日新聞社に御届を乞ふ

三、寄附者芳名を常磐毎日新聞紙上に掲載領收書に代ふ

寄附者芳名 第廿九回分

|     |        |        |
|-----|--------|--------|
| 仲間町 | 横山 博   | 坂本 實治  |
| 同   | 鈴木 タキエ | 橋場 丑之助 |
| 同   | 猪狩 盛彌  | 大樂 峯次郎 |
| 同   | 佐藤 孝敏  | 吉田 光治  |
| 同   | 白井 祐次  | 若松 武一郎 |
| 同   | 同カ     | 同モ     |
| 同   | 実戸 トヨ  | 若松 武   |
| 同   | 岩佐 一郎  | 水野 猪吉  |
| 同   | 同次 郎   | 同壽 雄   |
| 同   | 齊藤 正之  | 有賀 じめ  |
| 同   | 諸橋 利政  | 丹野 久五郎 |
| 同   | 松本 司   | 鈴木 竹松  |
| 同   | 眞弓 憲匡  | 同ッ     |
| 同   | 鈴木 惣五郎 | 佐藤 六三郎 |
| 同   | 鈴木 主計  | 高山 高藏  |
| 同   | 大山藤左衛門 | 若松 よし  |
| 同   | 増尾 三郎  | 同ミネヨ   |
| 同   | 西山 馨   | 鈴木 又六  |
| 同   | 廣田 徳一  | 馬目 誠   |
| 同   | 萩 善    | 梅津 文吾  |

△出前持 二十三才 尋卒

△月十圓(平町某料理店)

△給料面談(新瀉縣某)

△活版工 三十九才 高卒

△給料面談(新潟縣某)

△外交員 三十五才 中四

△修 給料面談(新潟縣某)

### 産業博覧會期中 最後の日曜日

馬力を掛けての  
サーピス振り

平の春を飾つた昭和産業博覧會は既記の如く来る十日褒賞授與式を名残りとして閉會を告げる事となり明日が開期中最後の日曜日なので相當の出入を豫想される處から寶探しの景品も大奮發すると共に仲々評判のよい敷島愛子一座の萬歳連も特に馬力を掛け手踊り珍藝等に獨特の持ち味を發揮して充分參觀者に對するサーピス振りを示し掉尾の一振を試みるといふ

### 陸軍士官學校の 演習けふ開始

#### 支那留學生も参加

既報陸軍士官學校生徒徒四百名は教官櫻田中佐引卒のもとに本日白河町の演習地より臨時列車に依り午後一時三十分平驛着十分休憩後湯本町に向つて出發したが教官本部を湯本松泊館に置き生徒隊は小名濱、泉湯本、磐崎に各百名づつ、分宿直ちに本日より演習を開始した尙同校御在學中の李錫公殿下も同列車にて

### 夏を呼ぶ

#### 麥わら帽子

平町の各洋品店が  
期節の到来を待つ  
今年減ツ法安い

麥釋帽子が夏を呼ぶ時候が一步づ、街頭に近いてゐる平町の洋品店では既に色とり／＼の夏帽子をシヨタマ仕入れて、期節の到来を待つて居る、さて今年の流行であるか昨年と何等變りがない、流行が上つた譯ではなく行詰つたと言ふのが至當であらう、内地製バ

### 入山健康會進

石城郡湯本町入山採炭會社の健康保險組合では明八、九の兩日同礦自治會館に於いて組合員の結核並にトラホーム豫防智識普及の爲め展覽會を開催すると

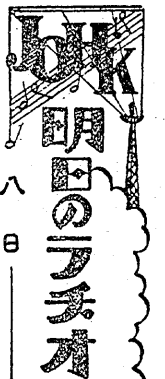
### 弓場新設

けふ道場開き

平法曹團にては此程中島十藏、市川季熊の兩氏發起となり弓道部を設け裁判所構内に矢場を新設本日午後一時より郡山市の弓道指南市村一二氏を迎へ道場開きを行つたが部長は中島十藏氏、副部長は市川季熊氏である

### 平商生舞子へ

平商學校にては来る二十日全校生が新舞子へ校外遠足運動をなすと



今夜は北西の風強く晴時々曇り明日は北西の風天気が見込み

### 今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- 「東西日本早廻り放送リレー」
- 後七、三〇 講演「肥後の醫學」熊本醫科大學名譽教授醫學博士山崎正重
- 後八、〇〇 俚謠「山中節」石川縣山中温泉有志
- 後八、一〇 俚謠「追分節」坂田光明外
- 後八、二〇 歌謡「レジーナ」
- 「麗人讃歌」
- 後九、三〇 奉天より
- 後九、四〇 全國ニュース
- 氣象通報 番組豫告
- 明日の部
- 前九、一〇 榮養料理「單」

### 主家の帳簿に 三百圓のアナ

#### 高飛し來り

#### 駄々羅遊び

石城郡江名町北町カフニオリエント方で昨夜九時頃より盛んに駄々羅遊びをしてゐる男を駐在所員が怪しみ取調べると同人は宮城縣鹽釜町入江町海産物鈴木福藏方店員仙臺市土橋通生れ藤田守(三)で主家の帳簿に三百圓の穴を開け實家に行くと稱し逃走し來つた事判明本日平署に押送さる

### 競技に熱中した 隙を見て窃盗

昨夜十一時頃南町裏通りを徘徊する青年を平署員が舉動不審と睨み本署に連行取

- 位式の筈飯「榮養研」所
- 前九、三〇 子供の時間
- 「ハローモニカ」白鷺舎
- 前一〇、〇〇 宗教講話
- 前一一、〇〇 講演
- 前一二、〇〇 講義講座
- 「諸の道しるべ」一七 實演養生新 解説池内信嘉
- 後〇、五〇 運動競技「六大學野球リーグ戦試合状況」慶應一明大 法政一帝大二回戦(雨天の爲め野球放送なき場合)
- 後〇、五〇 パラライカ獨奏 上野公園發明博覽會々場より中繼
- 後一、二〇 落語「奈良の鹿」一橋ノ圓
- 後一、五〇 琵琶「曲垣平九郎」鶴田旭窓
- 後二、二〇 新歌曲曲 令明音樂會
- 後二、五〇 聲色「吹寄せ」柳亭春樂
- 後六、〇〇 子供の時間
- 「東西日本早廻り放送リレー」
- 後六、三〇 醫學講座 醫學博士佐藤彰
- 後七、三〇 鴨川踊 京都先斗町より中繼
- 後八、三〇 ラヂオ風景「新聞鳩便」小堀試外
- 後九、三〇 奉天より

### 高月旬會清遊

平町高月旬會にては来る十五日新舞子へ清遊をなすが當日の句題は「雲雀」「櫻餅」「すかんぼう」である

### ラグビー選手出發

既報磐城中學校ラグビー選手十一名は東北帝大主催の七人制ラグビー大會に出場の爲め本日平驛午後一時五十分にて横井教諭及び井先コーチ引卒の下に出發した

### 誇大の廣告を掲げ 千餘圓を横領

自稱萬病藥を送らずに捲き上げた此金額

石城郡大浦村字上仁井田高木純(三)は昨年五月頃より東京關西方面の大新聞に萬病藥「松葉の果」なる誇大の廣告を掲げ振替口座を設けて盛んに宣傳し希望者から一圓の藥代を支拂はしめながら現品は一目も送らずその被害金額千餘圓に及ぶとの事で六日來四倉署に檢

### 平町人事

- △白銀町四〇渡邊富治氏三女英子
- △仲間町七五高山高藏氏三女ミツ子
- △北目町九谷地ヒキ子(一六)

# 幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演  
近藤紫雲畫

【第四十四席】 眞庭念流達人櫻井五助

酔て五十兩紛失

七郎次は越後屋十兵衛方で酒を馳走になり大層酔ひ風に吹かれて、あゝ千兩々々と云ひながらフラフラと主人の許へ歸つて来て中の口から嘔ひ上り

七「只今戻りましてございませう、おかめ今歸つたせ、コレおかめ」

と女中を呼んだ。かめ「なんだね七郎次さん對坐の時は呼び捨てにしても宜いが、此處には他に目もあり、耳もある、二人の仲を氣取られると飛んだ事になるよ」

七「然う／＼すつかり酔つたことゝ忘れてしまつたソレお前から頼まれた元結と油を買つて来た」

かめ「大層酔つてゐるね、何處で飲んだの、オヤ越後屋で御馳走になつたと」

七「泡盛を茶呑茶碗で二つ重ねたが、悉く酌酩いたした」

かめ「旦那はお前さんの歸りを待つてゐるよ、まだ七郎次は戻らぬか戻らぬかと云つて二度も中の口まで出て来たわ」

世に何と言ふ奴が初めて通用品をこしらへたか、これが出たから人間の心がガラリと變つて賤しくなつた俺が公方様になれば金などは廢してしまふ、ハイ、只今これへ參ります、あゝ

七「居りましたございませう、泡盛を御馳走になりまして御覽の如く酌酩いたしまして」

主「それは宜かつたナ、これと申すも金の威光だ、俺に借があるから貴様にまで馳走いたす、それゆゑ金のある者は贅をいたさぬ故ます、富榮える、金を借る奴に利息を拂ひ、その上御機嫌を取る爲に馳走もするそれで、はます、貧乏する時に金はどうした」

七「受取りましてございませう、證文は先方に戻しました」



酔つた、家へ入るとホトツとする、只今戻りましてございませう

と云ひながら主人の居間に入る、主殿は行燈の灯にて帳面を照し算盤を弾いてゐたが

主「大きに御苦勞であつた十兵衛は居つたか」

七「大事に肌へく、して居ります、これをなくしては大變、何にしろ五十兩と申しては、ハテナ何にいたせ十兩からは大金でございまして、不思議だナ、況して五十兩と申せば、これは妙だ、歸り、飯田屋に寄

つて油と元結を買ひ、あの時には金子に手を附けぬが何にいたせ金子は大切でございまして、確に泡盛を……」

主「何を申す、泡盛の事を聞いて居るでは無い、金をこれへ出せ」

七「何でございませう、甚だ怪しからん事で、ちよつと行つて參ります」

主「コレ待て、何處へ行く」

七「探ねて參ります」

主「何を探ねる」

七「金を探して參ります」

主「何だと金を探して參るヤイこれ待て、貴様は金子を落したか」

七「飛んだ事で、いまして」

主「コレ飛んだ事とは此方で申す事だ、金を落したかさて、不埒な奴だ、大切な金子を失ふとはこの白痴者め、何故首を落さぬ、貴様などの首は落ちればとて惜しいことはないぞ、金は天下無二の重寶だ、ウン判つた貴様は落したなどと申してその實は何れにか隠し置いたナ、それに相違あるまい、何處へ隠して置いたかそれを云へ」

七「イエなんぞそのやうな事をいたしませう」

主「然らば金を出せ」

七「取落しましてございませう、どうぞ御勘辨下さいませ、わたくしのお給金を以て御返濟いたします」

主「駄れ貴様の給料にて五十兩支拂うは、一と昔かゝるぞ、其内に貴様が逐電をい

たさば取る事はならんぞ」

七「それはわたくしの受人もございませう」

主「受人をこれへ呼べ」

七「然しそれは昨年病死をいたしました」

主「不埒な女だイヤこれは隠し置いたに相違ない、然

なくば越後屋十兵衛と謀し合して五十兩横領いたしたナ、さア白状いたせ」

七「そんな事はございませ

ん、どうぞ御勘辨下さいませ

し、酌酩いたしました爲にこの様な失策もいたしました

と

## 科人婦。科外 院醫坂井

町田町平  
番九五五話電

たさば取る事はならんぞ」

七「それはわたくしの受人もございませう」

主「受人をこれへ呼べ」

七「然しそれは昨年病死をいたしました」

主「不埒な女だイヤこれは隠し置いたに相違ない、然

なくば越後屋十兵衛と謀し合して五十兩横領いたしたナ、さア白状いたせ」

七「そんな事はございませ

ん、どうぞ御勘辨下さいませ

し、酌酩いたしました爲にこの様な失策もいたしました

と

ダンヒル ナミキ萬年筆製造元

標準六種金ペン製造  
ラツカークリツパ附  
定價四圓五十錢以上

平町公園前 角忠 佐々木商店 電話二三三番

特約店

昭和産業博覽會本館正面ニ出品  
御試用ハ弊店ニテ……種類豊富……  
學生向 二、〇〇ヨリ 紳士向 一七、〇〇

度量衡、計量器、吸入  
用酸素、酸素吸入器

關内藥局

電話四〇番

## お醤油は ヤマフル

醤油味噌  
たひら 正宗  
鯉節 食料品



鹽屋  
山崎合名會社  
福島縣平町電話營業部ニ醸造工場ニ  
明治生命塔城代理店 山崎與二郎